

特別展

# 石垣栄太郎

会期 昭和63年6月7日(火) - 7月17日(日)



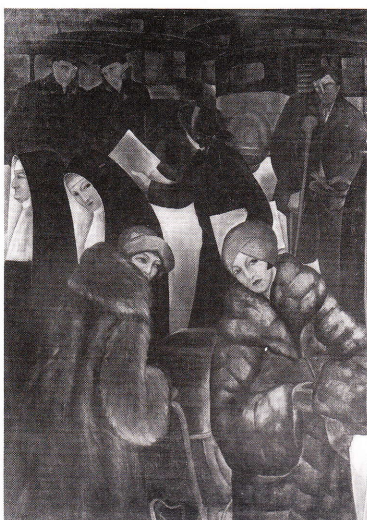
▲「鞭打つ」一九二五、京都国立近代美術館蔵

渋谷区立松濤美術館





◀「自画像」一九一六、和歌山県立近代美術館蔵



◀「街」一九二五、和歌山県立近代美術館蔵



◀「街」一九二五、神奈川県立近代美術館蔵

## 解説

明治26年（1893）12月1日、石垣栄太郎は、熊野灘に臨み、勇壮な古式捕鯨で知られる漁村太地に生まれた。父の政治は、古式捕鯨に使われる船を造る大工であり、少年栄太郎は父が造った船に村の提灯屋が松竹梅・菊・鳳凰などの模様を極彩色で施すのを見ながら育った。しかし、こうした生活は長くは続かなかった。幕末以来、今日捕鯨禁止を声高に叫ぶ欧米諸国が日本近海で鯨の乱獲をしたために、太地の捕鯨は衰退の道を歩んでおり、父の仕事も困難となっていた。石垣が小学校入学の年、父は移民として渡米する。そして、1909年、石垣もまた父に呼ばれて太平洋を渡った。

当初、父とともにカリフォルニア州ベーカーズフィールドにおちつき、同郷人の経営するメキシコ人相手の食堂で皿洗い、掃除夫として働きながら、日本人キリスト教会で英語を学んだ。当時、日本人移民に対する規制には厳しいものがあり、また、米国社会には根強い人種差別、

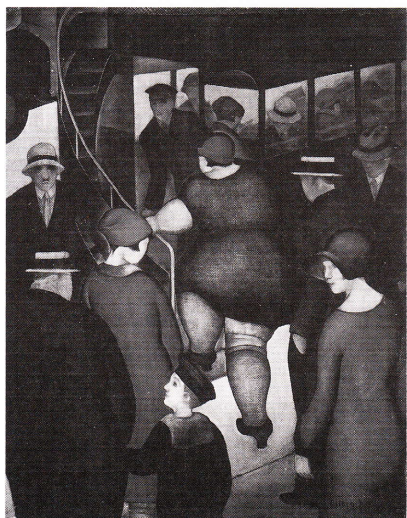
とくに有色人種に対する差別は強く、ましてや、英語も十分に話せない若者にはこうした下層の仕事しかなかったのである。こうした体験が、石垣の心に差別され虐げられる者への同情と共感を、差別し虐げる者に対する怒りと抵抗の気持をうえつけ、のちに、独特の極めて社会性の強い絵を描かせる原動力となったといえよう。

一年ほど後、石垣は父と離れてサンフランシスコに出る。ここで、その生涯を方向づけたというべき二人の人物にであう。一人は、詩人菅野衣川の妻で彫刻家のガートルード・ボイル、一人は亡命中の社会主義者片山潜である。

石垣は、サンフランシスコにでてしばらくしてから、菅野について英語を学び、その紹介で詩人ウォーキン・ミラーの山荘に遊ぶなどしてガートルードと親しくなる。ガートルードはその頃34・5歳で、額の広い、やさしい灰色の眼をしたインテリ型の美人であった。石垣はガートルード

の紹介でウィリアム・ベストの美術学校に入り、ついで、カリフォルニア州立美術学校に入学、画家としての道を歩み始める。石垣の美術に対する眼はガートルードによって次第に開かれていくとともに、二人の間には年令を越えた愛が育っていった。1915年、二人はニューヨークへ駆け落ちする。

美術に対する眼を開いていったのがガートルードであるなら、社会に対する眼を開いていったのが片山潜である。サンフランシスコでは、教会の文学部長として講演依頼をただけの交わりであったが、ニューヨーク出奔後の1917年、片山も遅れてニューヨークに移り、二人の交わりは深まる。時あたかもロシア革命勃発、青年男女が激しく動揺したのは当然の事であった。石垣は、片山を中心とする社会主義の研究会に加わり、田口運蔵、猪俣津南雄、間庭末吉、河本弘夫、渡邊春男らを識り、前田河弘一郎、鈴木茂三郎らと親交を結んだ。また、マーガレッ



◀「二階つきバス」一九二六、東京国立近代美術館蔵



▼「失音音楽隊」一九二八、東京都美術館蔵





▲「新聞を見る」一九二九、栃木県立美術館蔵



▲「K.K.K.」一九三六、和歌山県立近代美術館蔵

ト・サンガーやアグネス・スメドレーとも識りあい、日本にサンガーやH. G. ウェルズの文章を送るなどの社会的活動をくり広げていく。体験から得た思想が、片山らとの交わりを通して、徐々に肉付けされていったのである。片山はやがてソ連に渡るが、以後も交流を続け、後には片山の自伝を整理もしている。

石垣は、ガートルードと暮らし片山らと交わる一方で、働きながらアート・スチューデント・リーグに入り、アメリカン・シーンの画家ジョン・スローンに師事する。都市生活を描いた石垣の作品には彼の影響がくみとれる。1922年には、日本人美術家の団体画彫会の結成に参加し、1925年には独立美術家協会展に出品した「鞭打つ」がニューヨークの新聞各紙に好評をもって迎えられデビューを飾る。間もなく、石垣はガートルードと別れるが、独立美術家協会展、邦人画家展への出品を重ねて画家としての地歩を固め、1936年には初の個展を開くに至る。

この間、猪俣の紹介で知った田中綾子とともに、サッコ・ヴァンゼッテの処刑抗議集会に参加、やがて、彼女と結婚する。綾子と結婚した1929年には、「世界を震わせた十日間」の著者ジョン・リードの名を冠せた進歩的文化人の団体、ジョン・リード・クラブの創立委員として活躍する。クラブには、ヘミングウェイやドス・パソスなどの作家も加わり、また、メキシコの画家、リヴェラやシケイロス、オロスコなどとの交流があり、石垣の絵が大きな影響を受けたことは、ニューデール政策下の壁画制作によって知られる。

1930年代、日本は中国への侵略を拡大していくが、これに対して石垣夫妻は中国民衆の救援活動に積極的に参加した。石垣は、国吉康雄とともにポスターを作るほか、抗日闘争を描いた「戦い」(エルミタージュ美術館蔵)や「捕虜」などの作品を描き、スペイン内戦に対しても、フランコ・ファシスト政権に立向う民衆

の姿を描き、侵略され、圧迫される側の立場から制作を続けた。

日米開戦にともない、石垣夫妻は敵国民としての規制を受けたが、国吉とともに反日本軍国主義の戦いを続ける。この間の作品には、自己の内面の苦悩を示すかのような作品が多い。終戦後、次第に高まる反共主義の潮流の中、石垣夫妻は圧迫をうけはじめ、その頂点というべきマッカーシー施風のあおりを受け、追放されるが如くに帰国した。

帰国後は体調をくずし、岡本唐貴らの点々会に滞米中の作品を発表するほかは、制作もままならないまま、1958年1月23日、三鷹の自宅に歿した。

本展では、石垣栄太郎の遺作の中から油彩39点のほか壁画画稿、素描など100余点を陳列し、石垣の滞米中の画業を回顧し、その思想に触れるとともに、社会性、思想性の強いアメリカ派に対する認識を深めたいと思います。

▼「群像」一九三六



▼「捕虜」一九四〇、和歌山県立近代美術館蔵





## 石垣 栄太郎 略年譜

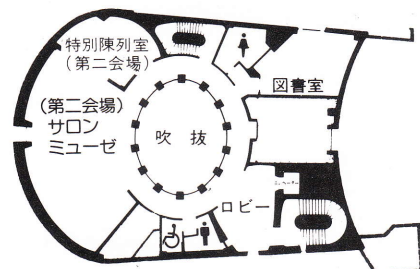
- 1893 和歌山県太地に船大工石垣政治の子として生まれる。  
 1901 太地小学校入学。この年、父政治、移民として渡米。  
 1907 新宮中学校入学。  
 1909 新宮中学校退学、移民として渡米。  
 1910 カリフォルニア州ペーカーズフィールドでボーイ、掃除夫などしながら日本人キリスト教会で英語を学び、聖書や社会主義関係の本に親しむ。  
 1912 サンフランシスコへ出、詩人菅野衣川と妻の彫刻家ガートルード・ボイルを識る。  
 1914 カリフォルニア州立美術学校に学び、また、亡命中の社会主義者片山潜を識る。  
 1915 ガートルードとニューヨークへ出る。働きながらアート・スチューデント・リーグに通い、ジョン・スローンに師事する。  
 1917 片山潜と再会。片山を中心とする社会主義の研究会に加わる。この頃、マーガレット・サンガーやアグネス・スメドレーらとも交わる。  
 1922 日本人美術家の団体画彫会創設に加わり、展覧会に出品。  
 1925 第9回独立美術家協会展出品の「鞭打つ」がニューヨークの新聞各紙で好評をえる。  
 1927 田中綾子と識りあい、ともに、サッコ・ヴァンゼッティ処刑の抗議集会に参加。  
 1929 ジョン・リード・クラブ結成。創立委員となる。オロスコ・タマヨらのメキシコ画家と交わり、また、田中綾子と結婚する。この年、大恐慌始まる。  
 1933 モスクワのプロレタリア美術展に「アメリカン・コザック」「馬上の人」の2点を出品。  
 1935 ニューディール政策の一環としてのWPAの仕事としてハーレム裁判所の壁画制作(1937完成)  
 1936 アメリカ美術家会議の創立準備委員となる。ACA画廊で作品18点による最初の個展。  
 1939 中国民族支援運動に加わる。  
 1940 ACA画廊で作品23点による2回目の個展。  
 1941 日米開戦。この頃より体調をくずす。  
 1945 日本敗戦。  
 1949 マッカーシーによる赤狩りが始まる。FBIの調べをうける。  
 1951 妻とともに帰国。体調がすぐれないため、本格的制作はできなかった。  
 1955 岡本唐貴らと点々会に参加(1958まで毎回出品)。デッサン展を中央公論画廊で開く。  
 1958 1月23日死去。11月、遺作展が文芸春秋画廊で開かれる。

## 講演会

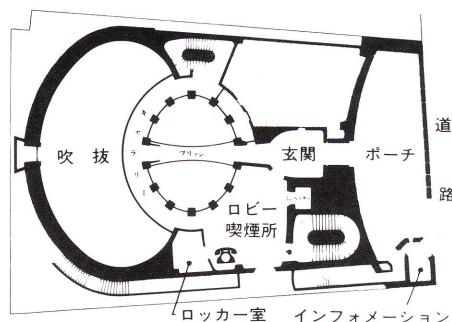
- 6月18日(土) 午後2時～  
「石垣栄太郎の思い出」 評論家 石垣 綾子氏
- 7月2日(土) 午後2時～  
「アメリカに学んだ画家たち」  
東京国立近代美術館美術課長 浅野 徹氏

## 松濤美術館・平面図

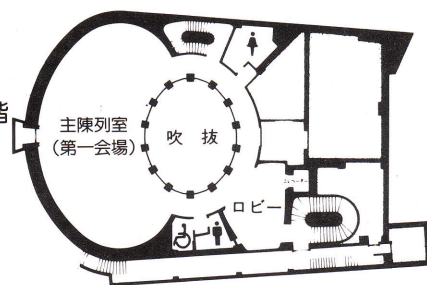
2階



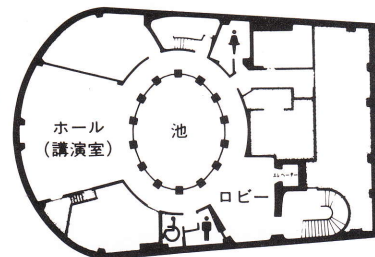
1階



地下1階



地下2階



●会 期 昭和63年6月7日(火)～7月17日(日)

●休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日  
 6月/12日(日)・20日(月)・27日(月)  
 7月/4日(月)・10日(日)

●開館時間 午前9時～午後5時(ただし入館は4時30分まで)

●入館料

|      | 個 人  | 団体(20人以上) |
|------|------|-----------|
| 一 般  | 200円 | 160円      |
| 小中学生 | 100円 | 80円       |

## 案 内 図

